

令和3年度新任教員研修の結果について

「三重大学新任教員研修」は、本学の教育理念及び教育研究等業務上で必要となる基本的な知識やスキルを理解してもらうことを目的に、新任の教員を対象として実施しています。今年度はコロナ禍の中、感染防止対策を考慮し対面形式ではなくオンライン形式で実施することとしました。研修期間は5月18日～7月20日とし、Moodle3.5によるオンデマンド型（非同期型）研修という形で実施しました。

実施内容は、1.三重大学の教育目標（学位授与、入学者受け入れ、教育課程編成・実施の3つのポリシー及び学修成果の評価の方針について紹介）、2.教育活動（WEBシラバスの作成、教育活動を評価するためのルーブリックの活用等）、3.オンライン授業・ハイブリッド型授業（オンライン授業の実施の注意点とMoodleコースサンプル等）、4.三重大学における学生支援の体制（CeMDSサポートデスク関連等）、5.学生向け各種アンケートの紹介、6.出張や物品請求に関する各システムの紹介から構成されています。今年度Moodle研修コースに登録のあった教職員は計38名でした（教員36名、職員2名）。

研修後のアンケートにおいて、「参考になったか」との質問に対し「非常にそう思う」「そう思う」の回答を合計した結果が約9割という肯定的な内容となりました。また、自由記述回答においても多数のご意見をいただきました。

■「研修内容についてのご要望」

- ①「紙媒体以外に映像関連のマルチメディア資料の用意」
- ②「研修内容をもっとコンパクトに」

■「オンライン授業・ハイブリッド型授業」について

- ①対面の参加者とオンラインの参加者の両方に気を使わなければならないので混乱する。
- ②回線の速度と安定性が心配です。
- ③多様な授業環境の提供のためとは理解していますが、システムの統一性がない（Moodle, Teams, Meet, Zoom...）ので、オンライン・ハイブリッド授業の設定や実施に迷いがあります（どれが自分の授業にベストなのか）。

④オンラインの場合、理解度を確認するために顔を見せるように言ってよいのか、躊躇します。チャット等での確認にとどまっています。

■「新任教員としての悩み」に関する回答

- ①教員同士、教職員間、教員学生間のコミュニケーションがかなり不足している
- ②全学レベルの研修以外に学部レベルの研修も必要
- ③教育システムが新しい環境となったので、理解と慣れに時間が必要かと思っています

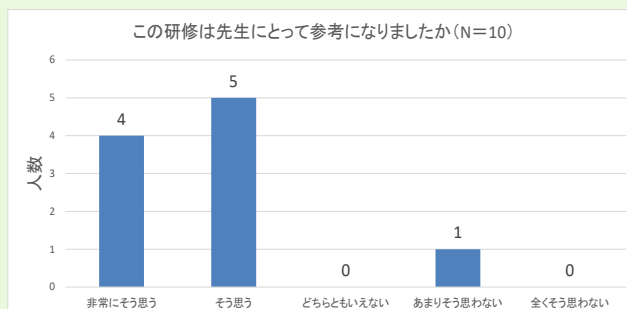
2021年度の新任教員から様々なご意見を頂戴いたしました。以上の意見を踏まえて来年度の研修内容を検討する際に活かしてまいります。（高等教育デザイン・推進機構 黄）

Vol.59

令和3年度新任教員研修の結果について

オンライン TA 研修 2 年目を開催しました

全学資格プログラムセンターの動向





冬空（三重大学地域イノベーション研究開発拠点 横にて）
（2022 年 2 月 22 日撮影）

オンライン TA 研修2年目を実施しました

今年度(2021 年)で2年目となるオンライン TA 研修を、今回は前期(4/5～5/10)と後期(9/27～11/1)の2回実施しました。

TA 研修とは、新規の TA (Teaching Assistant)を対象に、授業運営に携わる際に求められる基本的な心構えや基礎知識を学ぶ機会です。一昨年(2019 年)度まではグループワークを中心に対面で行っていましたが、昨年(2020 年)度は新型コロナウイルスの影響のため、初めてオンラインで TA 研修を実施しました。今年(2021 年)度も昨年度と同様に Moodle3.5 を用いたオンデマンド型のオンライン TA 研修(2 年目)を実施しました。

2 年目の受講者数(全ての課題修了者数)は、前期が 160 名、後期が 20 名で、一部に前期・後期ともに受講した学生も含まれているため、前期・後期合計の延べ受講者数は 180 名となりました。部局別には、工学と生物資源の学生が約 9 割を占め、昨年と比べて工学が減少(125→92)したものの、生物資源が増加(40→57)しています。(図 1)

受講者アンケートの全体の満足度(4 件法)では、前期・後期とも「4. 非常に満足」が昨年の 19%から 30%に増加しました。(図 2)これは昨年の受講者アンケート結果に基づき、課題の内容をリニューアルした影響であると考えられます。

リニューアル内容は課題構成で、課題 1～3 は TA としての姿勢・主な業務・注意点について各 5 問、課題 4 はオンライン授業について 15 問(後期は課題 4 と課題 5 に 4 問ずつに分割)として、各設問は問題スライドと解説スライドの 2 ページの構成で統一、スライドを読んだあとに小テスト(選択)に解答し、振り返りコメントを書き込み & 閲覧する流れとした点です。

(表 1)
受講者からは、「今年度は、オンライン授業についても項目があり、勉強になりました」「TA としての在り方を他者の観点から再確認でき、今後の TA 活動として非常に有益であった」等の声をアンケートで確認できました。

(高等教育デザイン・推進機構 宮下、黄)

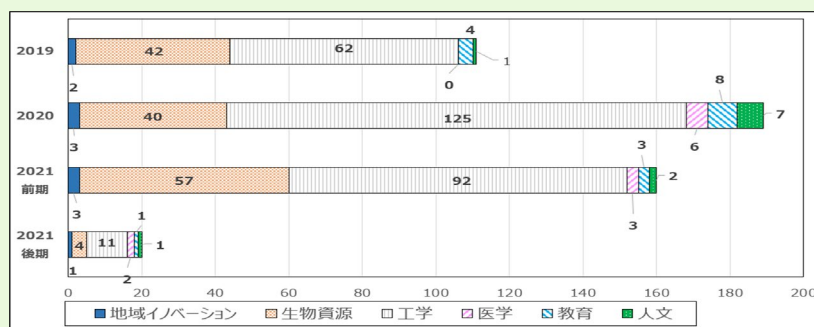


図 1 部局別受講者数(2019 年～2021 年度 TA 研修全課題修了者数)

表 1 年度別実施形式・時期・課題等

	2019 年	2020 年	2021 年前期	2021 年後期
実施形式	対面でのグループワークと講義	オンデマンド型※のオンライン	オンデマンド型※のオンライン	オンデマンド型※のオンライン
実施時期	4/8と4/9に同内容で2回実施	4/24～5/31	4/5～5/10	9/27～11/1
受講者数	111人(2日間の参加者)	189人(全課題修了者)	160人(全課題修了者)	20人(全課題修了者)
課題内容	3つのよくあるTA事例の解決策をグループ毎に検討・発表	※Moodle3.5のコースにある4つの課題に回答 課題1:小テスト(記述回答→定型解説文のフィードバック) 課題2:課題1の振り返り 課題3:チャットルーム 課題4:小テスト(選択10問)	※Moodle3.5のコースにある4つの課題(小テスト計30問)に回答 課題1～4※: スライド+小テスト(選択)+コメント書き込み&閲覧 ※課題1～3はTAとしての姿勢・主な業務・注意点で各5問、課題4はオンライン授業で15問学習	※Moodle3.5のコースにある5つの課題(小テスト計20問)に回答 課題1～5※: スライド+小テスト(選択)+コメント書き込み&閲覧 ※課題1～3はTAとしての姿勢・主な業務・注意点で各4問、課題4～5はオンライン授業で各4問

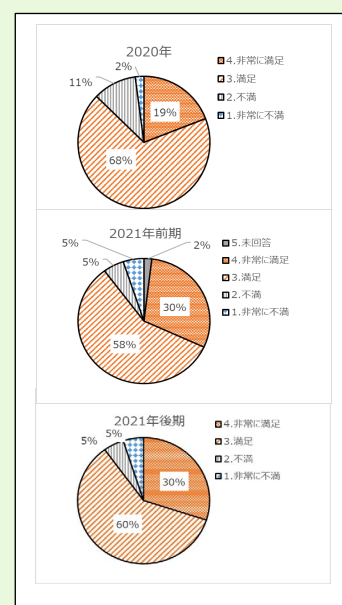


図 2 全体の満足度(4 件法)

全学資格プログラムセンターの動向

全学資格プログラムセンターが担う事項の一つに、人文学部・生物資源学部・(2020 年度入学生より)工学部に設置された教職課程(以下、全学教職課程)のプログラムの拡充及び質保証があります。今回は、全学教職課程における動向について紹介します。

全学教職課程には、現在、1 年生から 4 年生まで 194 名の学生が登録しており、自らの専門分野について学修を進める傍ら、教員免許の取得を目指し、教職課程の履修を進めています。毎年、数名の学生が県内外で教員や講師等として採用され、教育現場で活躍しています。また、さらなる学修・研鑽機会を求め、教職大学院への進学も進んでいます。

生物資源学部では、2021 年 12 月 15 日に教職実践演習という 4 年次必修授業の一環として、今年度、新規採用され愛知県内の高等学校に理科教員として勤務している卒業生 2 名を招き、オンラインで交流する機会が設けられました。「教師に求められる資質とは」というテーマのもと、質疑応答を中心に進められました。学生からは、教員としての生活や心構え、教職に就いてよかったと思うことや大変なことなど、教員生活の実際に関する内容に加え、教員

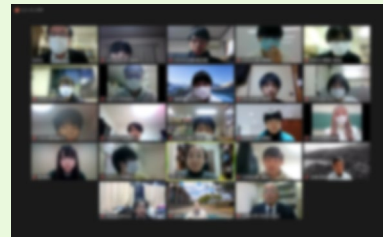
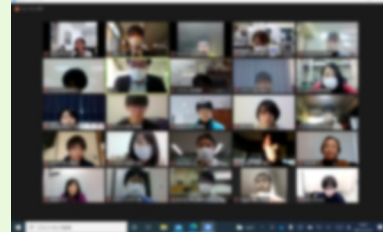


図 実際に開催された様子
(上段:12 月 15 日、下段:12 月 16 日)

採用試験に関する質問が数多く出されました。

また翌 12 月 16 日には、4 年生と 2・3 年生との懇談会がオンラインで開催されました。4 年生のこれまでの教職課程履修での経験や教育実習での体験、教員採用試験受験に向けた準備の進め方などに関する情報提供やそれらに関する質疑応答が行われました。

一方、人文学部においても 2022 年 2 月 4 日に、今年度から中学校で教員として活躍する卒業生 1 名と今年度の教員採用試験に合格した 4 年生 2 名を招き、「先輩と教職を語る会」が開催されました。招かれた 3 名から、教員を志望した動機や教員採用試験に向けた準備、教育実習での経験のほか、教職課程の履修にあたりこれまで大切にしてきたことなどについての経験や考えを多数聴くこ

とができ、学生を交えた活発な質疑応答が行われました。

いずれの機会においても、自らの進路や学修の進め方に様々な不安を抱える学生にとって、これからの実習や受験に向けた準備の方法、実際の教員生活について、先輩から直接話を聴くことのできる貴重な時間となりました。

これらの会はいずれも各学部の教職課程担当の先生方を中心にご準備いただきました。今後もこのような機会を継続的に設けられるよう、センターとしても各学部における教職課程の運営と学生の学びの機会の拡充に対する支援を続けていくとともに、全学教職課程として、学部を超えて学生が交流できる機会を設けて参りたいと思います。(高等教育デザイン・推進機構 下村)

編集後記

三重大学高等教育デザイン・推進機構ニューズレターNo.59をお届けします。当機構が発足して 1 年が経過しようとしています。コロナ禍が依然継続していますが、春の訪れとともに明るい気持ちで次の 1 年が迎えられるといいと思います。

お忙しい中、ご寄稿・ご協力いただきました皆様には、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。(高等教育開発デザイン・IR センター 黄文哲、教務チーム 川瀬奈津美)

News Letter vol.59
2022 年 3 月発行

国立大学法人三重大学
高等教育デザイン・開発機構

〒514-8507
三重県津市栗真町屋町 1577
TEL:059-231-5615
FAX:059-231-9058
E-Mail:
kyomu-k@ab.mie-u.ac.jp
HP:
<https://www.hedp.mie-u.ac.jp/>